１．北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連（北海道）	◎	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の分類が５類になってから、高齢者を中心に観光客が増えているほか、グループ旅行や修学旅行も活発になっている。インバウンドもこれまでにみられなかったような国からの客が増えており、好調を維持している。これらのことから、今後も大きく期待できそうである。
	◎	一般小売店［土産］（経営者）	・５月の売上がコロナ禍前の水準に届かなかったのは、ゴールデンウィーク期間中に中国人観光客がいなかったためとみられ、中国人観光客の影響がいかに大きかったかを思い知らされた。今後については、中国人観光客が戻ってくることが期待できるため、景気は更に良くなる。
	◎	一般小売店［土産］（経営者）	・今後については、全国旅行支援が終了するため、その分の観光客が減るとみられるものの、今まで旅行を控えていたゴルフ客が夏の旅行シーズンに増えることが見込まれる。また、北海道で開催される大きな会議や会合などがこれから増えるとの話も聞いている。こうした需要により景気が下支えされ、全国旅行支援が終わった後も売上に大きな影響は生じないとみられる。
	◎	旅行代理店（従業員）	・コロナ禍も終息しつつあることから、今年の夏季繁忙期は観光需要の拡大が見込まれる。また、空港に隣接する工業団地に大型企業の進出が決まったことで、関連するビジネス需要の拡大も期待できる。これまでコロナ禍前の50％程度の便数で推移していた国際定期便も北京路線の約３年半ぶりの再開が発表されるなど、中国路線の復便がようやく始まることもプラスである。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者［フェリー］（従業員）	・今後については、ツアー客に加えて、個人客の増加も見込めることから、景気は良くなる。
	○	商店街（代表者）	・今後については、観光客による来街も、地元客による来街も増える公算が大きい。また、新型コロナウイルス感染症の分類が５類になって初めての夏祭りが行われるため、郊外や周辺町村からの来街者も期待でき、様々な業種で前年よりも売上がアップすることになる。週末に歩行者天国が実施される期間であることもプラスである。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の分類が５類になったことで観光客が増え、それに伴って当店の来客数も増えると期待している。
	○	一般小売店［酒］（経営者）	・観光客の入込がかなり増えており、街も活気を取り戻している。人流が増えることでそれに比例して販売量も増えることになる。
	○	百貨店（売場主任）	・７月11日に中国との直行便が再開されることから、インバウンドの動きが活発になると期待している。
	○	百貨店（販売促進担当）	・来客数が増加し、客単価も上昇していることから、今後の景気はやや良くなる。ただ、物価の上昇幅が予想以上に大きく、生活者の負担になっている。この傾向は今後しばらく続くとみられるため、景気が大きく上向くことまでは考えにくい。
	○	百貨店（マネージャー）	・直近３か月の客の買上動向から判断する限り、今後も景気は良くなる。
	○	スーパー（店長）	・夏に向けてコロナ禍で休止となっていたイベントが再開される予定であることから、水着、浴衣、行楽用品、旅行用品などの販売量の伸びが期待できる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今後については、インバウンド需要、特に中国人観光客の回復が大きな焦点となる。中国人観光客が回復することで、一気に国内景気回復の動きが加速すると期待している。
	○	コンビニ（エリア担当）	・コロナ禍が終息し、来客数が増えてきていることから、今後の景気はやや良くなる。当社はコロナ禍の最中も売上が増えたが、コロナ禍が落ち着きをみせてからも来客数が伸びているところから、新型コロナウイルス感染症の影響による部分以外でも売上が伸びていると分析している。
	○	コンビニ（エリア担当）	・スポーツや祭りなど、特に野外でのイベントが制限なく開催できるようになったため、今後も人出の増加が見込める。北海道で高校生による全国規模の大会が開催されることもプラスである。

○	衣料品専門店（経営者）	・アフターコロナの流れにあることから、今後の景気はやや良くなる。また、そうならなければならないはずである。
○	家電量販店（経営者）	・エアコンなどの夏物商戦に期待している。
○	家電量販店（店員）	・電気料金引上げのニュースが伝えられてから、客が省エネ家電に注目しているため、今後の景気はやや良くなる。
○	乗用車販売店（経営者）	・求人倍率の上昇に伴って、個人消費も伸びると見込んでいる。雇用する企業、就労する個人の増加により、新型車への関心も高まることになり、購入を検討する場面も増えることになる。
○	乗用車販売店（従業員）	・新型車が発表されることから、今後の景気はやや良くなる。
○	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の分類が２類相当から５類へと変わり、コロナ禍前の人出に戻りつつある。特にインバウンドが目に見えて増えており、今夏には台湾との直行便が増便されることから、景気回復に寄与すると見込んでいる。
○	旅行代理店（従業員）	・現在の旅行需要は２～３か月は続くとみられる。ただ、この流れがいつまで続くか不安な面もある。
○	タクシー運転手	・北海道はこれから本格的な観光シーズンを迎えるため、今後の人出が増えると期待している。また、当地では、５月31日からタクシーの運賃が約14％の値上げとなるため、売上がコロナ禍前の水準に近づくことを期待している。
○	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、これから夏に向かって徐々に人の動きが増えてくる時期でもあるため、今後への期待が大きい。
○	観光名所（従業員）	・来客数の推移をみると、例年並みの水準に回復する動きは鈍化しつつあるものの、地元空港の国際線定期便が７月から増便されることでのプラス要素を期待できることから、今後の景気はやや良くなる。
○	美容室（経営者）	・旅行やイベントなどに出掛ける人が増えており、それに伴って客の来客周期が短くなってきた。来客周期が短くなったことで売上が増加傾向となっている。
□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の分類が５類になったことで人々の動きも徐々に回復してきているが、物価の上昇や賃金の引上げなど、今後に向けて不確定な要素も多いため、景気がどうなるか分からない。
□	一般小売店（経営者）	・単価の高い商材は売れているが、販売量自体はそれほど多くない。こうした傾向は変わらないとみられるため、今後も景気は変わらない。
□	スーパー（店長）	・前年はコロナ禍での需要増があったが、今年はその恩恵がない。また、食品の値上げが続いているなか、電気料金も上がることから、今後も景気は変わらない。状況によっては、若干景気が悪くなる可能性もある。
□	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症の分類が５類になったことでお盆の帰省客が増え、当店の来客数や販売量も増えるとみられる。ただ、光熱費などの経費がかさむことも見込まれるため、景気は変わらないまま推移する。雇用を思うようにできない状況も変わらない。
□	コンビニ（エリア担当）	・電気料金の引上げを控えるなか、各店舗が経費上昇分を吸収できるか心配している。客も家計支出が増える分、買い控えの動きが出てくるのではないかと心配している。ただ、現状、内部努力可能な部分で値上げ幅を極力抑えることができているため、市場での優位性は高いと考えている。
□	乗用車販売店（経営者）	・受注残があるため、引き続き安定した販売量を見込めるが、同業者も含めて受注量が前年の60％と悪く、年後半の販売に影響する懸念がある。一方、観光業などは道内外からの人の動きが活発なことから、引き続き上向き傾向で推移するとみられる。
□	乗用車販売店（従業員）	・今が景気の底だとみているが、業界によって景気の良しあしが分かれている。飲食業や旅行業は景気が良さそうだが、小売業は物価高、電気料金引上げの影響もあって厳しい状況にある。特にぜいたく品については、客が金を使うことが難しくなってきている。
□	乗用車販売店（従業員）	・短期的には今後も生産能力の向上が余り見込めないことから、収益増加は期待できない。受注を停止している車両も多く、この先が心配である。
□	自動車備品販売店（店長）	・今後も景気の変わらない状況が続く。

□	住関連専門店（役員）	・気温が上昇しているものの、季節商材の動きが鈍いことから、今後も景気は変わらない。
□	その他専門店［造花］（店長）	・現在の消費動向から、今後も景気は変わらない。仕入価格の高騰が続く限り、変化のないまま推移する。
□	高級レストラン（スタッフ）	・今後の景気については判断しづらい。売上は増えているが、利益は横ばいであり、一部の客は外食志向が強いが、多くの客は来店しなくなっている。毎月の変化も大きく、手放しで喜べない状況にある。
□	観光型ホテル（経営者）	・夏季シーズンの予約数が増加傾向にあるが、遊覧船事故の影響が長引いており、道内を周遊する個人客が伸び悩んでいる。一方、インバウンドについては、ドライバー不足の影響でバスの供給が追い付いていないことで旅行需要を逸しており、コロナ禍前の水準には程遠い状況にある。
□	観光型ホテル（スタッフ）	・全国旅行支援が終了するタイミングを境に予約の動きが止まっており、今後、夏場の予約がどのくらい伸びていくのかが未知数である。
□	旅行代理店（従業員）	・現在は４月までの旅行特需の反動で需要が減少しているが、秋の旅行シーズンに向けて需要が回復することを期待している。
□	旅行代理店（従業員）	・現在、旅行先によってはまだ全国旅行支援が適用されているが、夏以降は補助が無くなると見込まれることから、現状と比べて景気が良くなるとは考えにくい。
□	タクシー運転手	・季節的に良いシーズンを迎えることから、観光客の利用が増えることへの期待はあるものの、地元客の利用状況、特に夜間の利用が減少傾向にあることから、日中の利用がある程度増えたとしても、全体的な利用客は変わらないとみられる。
□	タクシー運転手	・乗務員不足が顕著であるため、人流が増えても対応しきれない。乗務員採用が加速度的に進まない限り、今後の回復は見込めない。
□	通信会社（企画担当）	・通信端末の売上が減少傾向にあるものの、附帯するキャッシュレスサービスが引き続き伸びている。今夏において、都市圏を中心に加盟店も増える見込みであることから、通信端末の売上減少分をカバーできるとみられる。
□	美容室（経営者）	・アフターコロナの段階となり、これまでの制限から完全に解放されているわけではないが、少なくとも景気が下向く気配は感じられない。
□	住宅販売会社（経営者）	・需給バランスが落ち着き、木材や合板の単価が下げ止まるまで景気は変わらない。
□	住宅販売会社（経営者）	・建築価格の上昇に伴い分譲マンションの価格は上昇を続けているが、客の所得の増加が最近のインフレに追い付いていない状況にある。客の所得増が価格上昇に早く追い付くことを期待している。
□	住宅販売会社（従業員）	・賃上げが物価や燃料価格などの上昇幅と同程度以上の水準になるか不透明なことから、今後も景気は変わらない。
▲	商店街（代表者）	・客の様子をみると、より価格の安い商品を求めるようになっている。
▲	スーパー（店長）	・光熱費の引上げや物価高によって、買い控えの動きが強まるとみられる。
▲	スーパー（企画担当）	・食料品、酒類、雑貨など、日用品の値上げがいまだに続いており、客の買上点数もここに来て減少幅が一層拡大している。買い控えの傾向が顕著になりつつあることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（企画担当）	・価格上昇の動きが強くなっていることで、客がバーゲンセールなどを狙って来店することが増えるようになり、来客数が減少することが見込まれる。
▲	スーパー（役員）	・食品の値上げが続くなか、電気料金の引上げが発表されたことで、客の節約志向がますます強まることになる。
▲	スーパー（従業員）	・光熱費の引上げに伴って売上が悪化することになる。
▲	コンビニ（店長）	・値上げの影響で主食系の商材の売行きが鈍化している。
▲	衣料品専門店（店長）	・モノよりコトへの消費が活発になっていることから、今後の景気はやや悪くなる。また、外出が盛んになっていることが報道されているが、スーツ業界はこれから閑散期に向かうため、需要回復は期待できない。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	・光熱費が高騰するなか、食品の物価上昇も続くとみられることから、今後の景気は下向くことになる。

	▲	その他専門店［医薬品］（経営者）	・あらゆる商材の値上げが当業界にとってマイナスになっている。客の買物を増やすような新たな啓もう活動を行うことが急務である。
	▲	スナック（経営者）	・２次会や３次会で利用されるような店であるため、居酒屋とは違って利用するのが難しいとみられる。当店にとってはコロナ禍の影響が続いているのが現状である。
	▲	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の終息に伴う人流回復の恩恵を受けるのは一部の業種であり、地方のタクシー業界が享受することはないとみられる。
	▲	通信会社（エリア担当）	・通信キャリアの代理店施策が影響し、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	通信会社（エリア担当）	・通信キャリアの施策動向から、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	美容室（経営者）	・人件費が高騰していることから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	－	－
企業動向関連（北海道）	◎	－	－
	○	家具製造業（経営者）	・コト消費に移る動きがみられることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（経営者）	・今後については受注が一層進むことで稼働率も上がることになる。新型コロナウイルスの感染状況が一段落し、インバウンドなども増加していることで街中の景気が良くなっていることもプラスである。物価や株価が上がることで経済そのものの力強さも生まれるようになれば、民間工事の増加も見込めるようになる。
	○	輸送業（支店長）	・半導体製造工場の建設が始まることで、土木、建築関係の物流量が増えることを期待している。
	○	通信業（営業担当）	・観光シーズンの本番を迎える時期であることから、このまま新型コロナウイルス感染症が終息することになれば、道内の景況感は現状よりも上向くことになる。
	○	金融業（従業員）	・輸入物価、企業物価の増加幅が縮小していることに加えて、消費者物価も４～５月の値上げで一段落することが見込まれる。６月から引き上げられる電気料金について、値上げ幅が当初よりも圧縮されたこと、10月までは国による激変緩和対策が続くことで影響は小さくなるとみられる。今春の賃上げが実施されていることもあって、個人消費は今後も底堅く推移すると期待している。
	○	その他サービス業［建設機械レンタル］（総務担当）	・都市圏の再開発、北海道新幹線の延伸などにより、今後も旺盛な建設投資が見込まれることに変わりはない。これから発注が活発に行われると期待している。
	○	その他サービス業［建設機械リース］（営業担当）	・建設投資は全体的に堅調なことから、今後の景気はやや良くなる。ただ、資材価格の高騰や人手不足など、今後に向けての不安材料もみられる。
	□	食料品製造業（従業員）	・当面、現状と同様の傾向が続くことになる。
	□	建設業（従業員）	・建設工事費が高騰していることで、新築案件を先延ばしする傾向がみられるため、景気が上向くとは考えにくい。
	□	建設業（役員）	・今年度前半の完工高が年度計画を上回るペースで推移する見通しに変わりはない。賃上げに伴う人件費増や、資材や燃料の価格高騰による建設コストの上昇をいかに吸収して利益を確保していくかが今後に向けての課題となっている。
	□	輸送業（従業員）	・取引先との商談において、商材価格が高騰していることで受注量が減少し、在庫量が増加しているとの話を聞くことから、商材の値上げが買い控えにつながっている様子がうかがえる。観光客も徐々に回復してきているが、今後に向けて余り期待できない状況にある。
	□	司法書士	・景気が良くなる要素が見当たらない。増税が先行するような政策が出てきたり、国会議員が解散風に吹かれてそわそわしている状況では景気が良くなることはない。今後の景気が悪化しないことだけを願っている。
	□	その他サービス業［ソフトウェア開発］（経営者）	・経済面に対する多くのマイナス要因が世界全体で生じており、今後どのような影響が出てくるのか見当も付かないが、少なくとも直近３か月については、現状の景気の良さを維持できる。
	□	その他非製造業［鋼材卸売］（従業員）	・短期的な景況感を判断するには難しい状況となっている。長期的な仕事量の見込みや今後の動きを判断するためにも多方面での情報収集力が必要になっている。

	▲	金属製品製造業（従業員）	・新築住宅着工棟数が前年を下回る状況が続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・今後については、電気料金の引上げなどが予定されているため、生活費の負担が増すとみられる。そのため、景気はやや悪くなる。
	▲	その他サービス業［建設機械リース］（支店長）	・物価高騰に伴って収益力が低下している客が多いことから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	農林水産業（経営者）	・６～８月は青果物の端境期であり、製品在庫の積み増しを重点的に行う期間となるため、景気は悪くなる。
雇用関連 （北海道）	◎	－	－
	○	人材派遣会社（社員）	・企業の求人意欲が強まっている。欠員対応もあるものの、新規採用を計画する企業が多いことから、今後の業績拡大を見込んでの動きとみられる。採用時期は採用活動の開始から３か月ほど先になるため、夏以降の業績回復を見込んでいるとみられる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・地域基幹産業の農業が安定していることから、活発な人の移動やインバウンドの入込増などが、これからの地域経済の底上げにつながることになる。
	○	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は２年１か月ぶりに前年を下回ったが、産業や業種によってその度合いが異なるため、全体的な景気は良くなると期待している。ただ、今後の新型コロナウイルスの感染状況、経済活動や消費行動の状況によっては先を見通せない状態となることも懸念される。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・これから電気料金が上がり、食品の更なる値上げも心配されていることから、今後企業の採用活動が一層慎重になるとみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・当地は全国的な人気観光地であるため、今後、観光客の入込が増えることで、引き続き上向きで推移すると期待している。
	□	職業安定所（職員）	・春闘などによる賃上げが実施されることで一時的に景気は良くなるかもしれないが、更なる値上げが心配されることから、その効果は長続きしないとみられる。
	□	職業安定所（職員）	・原油や原材料の価格高騰など、事業環境の悪化を招く要因は多いものの、業況堅調な事業所からコンスタントに新規求人が出されていることから、今後も景気は変わらない。当地の有効求職者数は９か月連続で減少しており、新規求職者も５か月ぶりに前年を下回った。
	□	学校［大学］（就職担当）	・新型コロナウイルス感染症に伴う制限が大幅に緩和されたことで、旅行業、宿泊業、飲食業などでは活気が戻ってきている。一方、その他の業種においては、企業採用担当に聞く限り、景気が上向きにあるとは感じられない。これらのことから、全体的には今後も景気は変わらない。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・物価高の影響がじわじわと表面化している。街中で観光客を見掛ける機会が増えているが、企業側の求人意欲はそれほど高くはない。
	×	＊	＊